



スタパティヤの家

会員 野間 自子 (38期)

アトピーが治った

我が家は、スタパティヤ・ヴェーダという5000年以上昔にインドで認知された建築の知識に基づいて建てられた。このスタパティヤ・ヴェーダの基本理念は「自然との調和」であり、代表的な建物としては、アンコールワットなどがある。どうしてこんな家を建てたかというところがヴェーダ科学に凝っていたためその趣味に付き合ったからなのだ。しかしながら、古代インドでは当たり前のことを現代日本で実現するのは困難を極めた。何度も建築自体を断念しかかり、頑固な夫を恨めしくも思い、泥船に乗ったと後悔しながらもなんとか完成した。そして新築した家に入居したらあつという間にアトピーと花粉症が治った。今では夫はどうだといばっている。私も忍耐強く待った甲斐があったなあとしみじみ。

建設会社が見つからない

我が家の特徴は、渦巻状の銀河系と同様、家の中心に空間があり、それを取り巻くように各部屋が配置されていること、四方が東西南北に正確に面していること、ほぼ全てにおいて自然素材を使用していることなどである。他にも約束事が多々ある。

しかしながらまず無垢材だけで家を建築してくれる建設会社が見つからない。最初の会社からは断られ、途方に暮れて住宅展示場に行ったりしたが、結局、インターネットを利用して今の建設会社をようやく探し当てた。それまではやっと探したほぼ東西南北に沿い東がいた土地もずっと更地のままかもと暗澹たる気分にもなった。

自然素材で建てるのは大変だ

素材もたとえば自然素材の防水シートや断熱材などは普通の家では使用されていないために、探すのが本当に大変だった。結局、防水シートは杉の皮、断熱材は羊毛と炭化コルク、接着剤は餅米粉、鉄もペンキも望ましくないので無塗装のアルミのベランダ、漆喰と木の壁、

化学成分の入っていない瓦やタイル、電磁波を発生させない電線など細部に至るまでこだわりぬき、適合する素材を手探りで見つけていった。会社ではこのような素材で大丈夫かいろいろ実験もやってくれていたようだ。ここでもインターネットが役立った。試行錯誤の連続で家が完成したのは、土地を探し始めて4年後、設計に着手してから2年後だった。無理のない範囲でよいというのがスタパティヤの指示であったにもかかわらず、完全主義者で凝り性の夫と辛抱強い会社の責任者が「やるからには完璧に徹底的にやろう」と頑張ってくれたお陰でたぶん日本で一番正確にスタパティヤ・ヴェーダに忠実に建てられた家になった。

自然と調和した家

このような苦労を重ねて完成させた我が家は、シックハウス症候群とは無縁の木の香りが豊かな明るい家となった。しかも冬は隅々に至るまで暖かく、夏は涼しく、風が吹き抜ける快適な家となった。アレルギーも治り、住む家がいかに健康に影響しているか、「自然と調和した家」がいかに素晴らしいかを心から実感する毎日である。スタパティヤの家じゃないと家は建てないと半ば脅迫してつき合わせた夫を見直した。

最後に、古代インドの叡智とチャレンジングな試みに果敢に挑戦して下さった建設会社の皆さまに感謝の意を表して筆を措くこととする。

